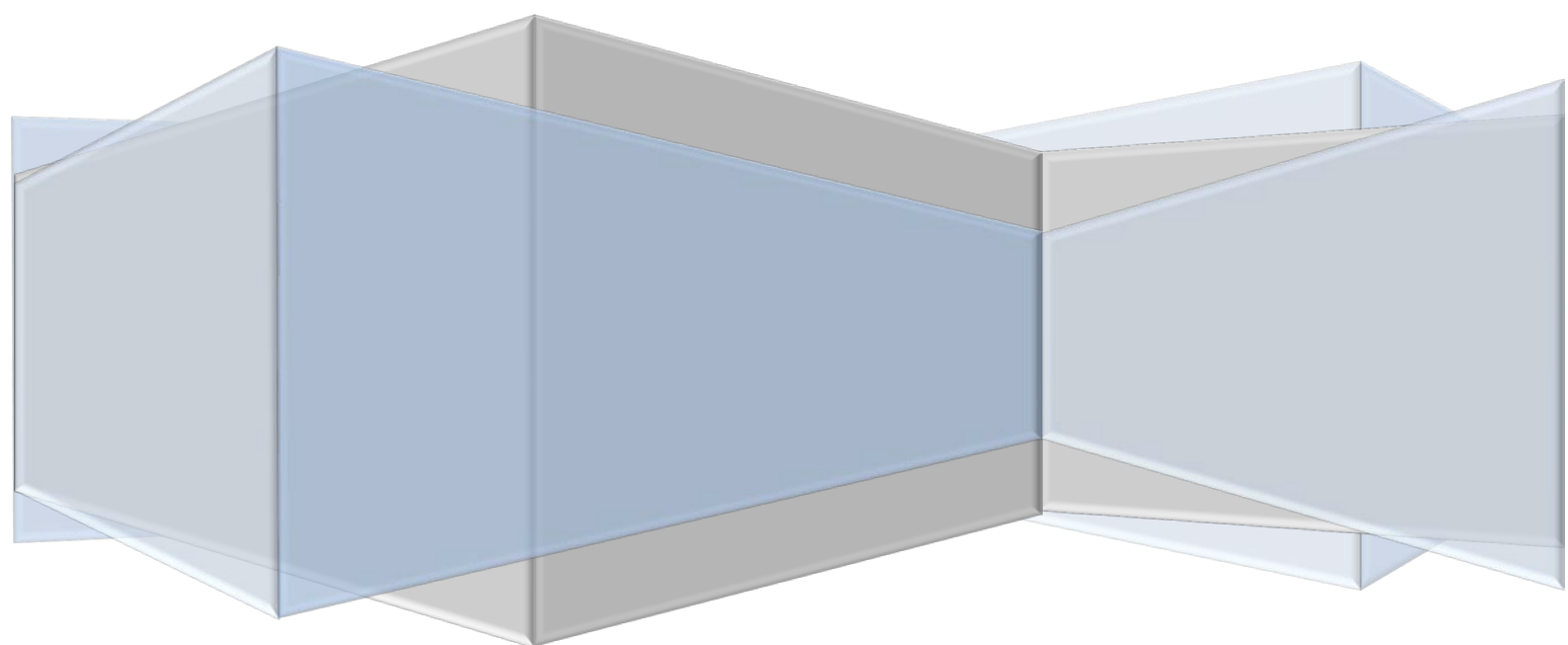


富山大学医療人教育室 2021 年度報告書



医療人教育室報告書 2021 年度

目次

室長ご挨拶

I 医療人教育室について

1. 教室概要
2. 室員紹介
3. 富山大学杉谷キャンパス医療人教育室の設置に関する内規

II 各分野からの報告

医学科教務委員長 森永 芳智
薬学部教務委員長 友廣 岳則
看護学科教務委員長 安田 智美

III 退任に寄せて

富山大学（保健）医療人教育室の15年（since 2006） 副室長 廣川 慎一郎

IV 2021 年度活動報告

1. 医療人教育
2. 医療人教育室運営管理
 1. 医療人教育室運営会議
 2. 広報活動

V 2022 年度活動計画案

室長ご挨拶

富山大学杉谷キャンパスは、前身の「富山医科薬科大学」創立の理念「里仁為美」という「人に対する慈しむ心の教育」の伝統を、医学部・薬学部の強い連携により受け継いでいます。すなわち、「よき医療人を育成する」という両学部の共通理念から、医学・薬学・看護学を横断的に教育できる組織として医療人教育室が開設され、医学薬学教育部長が室長を兼任しています。

医療人教育室には5つのミッションが掲げられています。

- ①学生の入学から卒業までの教育の一貫的な評価及び支援
- ②医学、薬学、看護学の共通教育の連携
- ③医療人の教育及び研修機会の提供
- ④医療及び福祉に係る教育資源の開発、維持及び充実
- ⑤国際交流に関連した人材育成

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、比較的多くの期間で対面授業を行うことができました。医療人教育室では、1年次生向けに「医療学入門」を担当し、医学部（医学科、看護学科）と薬学部（薬学科、創薬科学科）の新入生に対して、医療人に求められるプロフェッショナルリズムや多職種連携の重要性について教育しています。例年、講義・グループディスカッション・野外活動・実習などを行っています。今年度は残念ながら、コロナ禍のなかで、フルスペックで実施することはできませんでしたが、何とか無事に終えることができました。ご協力いただいたすべての皆様に御礼を申し上げます。

今後も、新入生から実際に臨床や研究を実践するようになる高学年に至るまで継続的な医療人教育を行い、地域のみならず広く世界で活躍する優秀な人材の育成に努めていければと思います。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、長年にわたり、医療人教育室の屋台骨として、極めて多大なご尽力をいただきました廣川慎一郎先生に心より御礼を申し上げます。廣川先生あつての医療人教育室だったと思います。本当にありがとうございました。廣川先生の今後ますますのご活躍とご健康をお祈りしております。

室長 酒井 秀紀

I 医療人教育室について

1. 教室概要

医療人教育室は、学部教育、医療学教育、医療人教育、国際交流連携などの学務業務を全般に補完し、保健医療分野の人材育成を目的に以下の業務を行っております。

1. 学生の入学から卒業までの教育の一貫的な評価と支援に関する業務
2. 医学・薬学・看護学の共通教育に関連する業務
3. 医療人の教育・研修機会の提供に関する業務
4. 医療・福祉に係わる教育資源の開発、維持、充実にに関する業務
5. 国際交流に関連した人材育成に関する業務
6. その他医療人教育に関する業務

2. 室員紹介

室長	酒井 秀紀	薬学部長、薬物生理学教授(薬学部)
副室長	廣川 慎一郎	南砺・地域医療支援学寄附講座客員教授(附属病院)
室員	松谷 裕二	薬学部副学部長、薬品製造学研究室教授(薬学部)
	森永 芳智	医学科教務委員長、微生物学教授(医学科)
	友廣 岳則	薬学部教務委員長、生体認識化学研究室教授(薬学部)
	安田 智美	看護学科教務委員長、成人看護学2教授(看護学科)
	石木 学	保健管理センター(杉谷分室)准教授

オブザーバー

高橋 知裕	医薬系学務課長
谷村 英一	医薬系学務課 課長補佐
本多 了	医薬系総務課係長
松田 育枝	医薬系学務課
川島 侑美子	医薬系学務課

事務補佐員

坂下 祥

3. 富山大学杉谷キャンパス医療人教育室に関する内規

(目的)

第1条 富山大学杉谷キャンパスに、医学、薬学及び看護学の連携の基に医療分野の人材育成を体系的に進めるため、医療人教育の組織化を図ることを目的として、医療人教育室を置く。

(組織)

第2条 医療人教育室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

(1)室長

(2)副室長

(3)医学部教授会及び薬学部教授会（以下、「各教授会」）から選出された教員 若干人

(4)その他室長が必要と認めた者

2 室長は、医学部長又は薬学部長をもって充てる。

3 副室長は、第1項第3号及び第4号の室員のうち、室長が指名する者をもって充てる。

(室員の任期)

第3条 第2条第1項の室員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の室員の任期は、前任者の残任期間とする。

(業務)

第4条 医療人教育室は、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)学生の入学から卒業までの教育の一貫的な評価及び支援に関する業務

(2)医学、薬学及び看護学の共通教育の連携に関する業務

(3)医療人の教育及び研修機会の提供に関する業務

(4)医療及び福祉に係る教育資源の開発、維持及び充実にに関する業務

(5)国際交流に関連した人材育成に関する業務

(6)その他医療人教育に関する業務

(称号の付与)

第5条 室員に、次の各号に掲げる称号を付与することができる。

(1)医療人教育室教育教授

(2)医療人教育室教育准教授

(3)医療人教育室教育講師

(称号の付与手続)

第6条 称号の付与は、各教授会の意見を聴いて室長が行う。

(称号付与基準)

第7条 各称号付与の基準は、次に掲げる者で医療人教育に優れた能力を有するものとする。

- (1) 医療人教育室教育教授 10年以上の医療人教育の経験を有する者又は特に優れた医療人教育の経験を有する者
- (2) 医療人教育室教育准教授 6年以上の医療人教育の経験を有する者
- (3) 医療人教育室教育講師 4年以上の医療人教育の経験を有する者

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、医療人教育室に関し必要な事項は、各教授会の意見を聴いて室長が別に定める。

附 記

この内規は、平成18年10月18日から実施する。

附 記

この内規は、平成19年4月1日から実施する。

附 記

この内規は、平成23年6月15日から実施する。

附 記

この内規は、平成25年6月19日から実施する。

附 記

この内規は、平成25年9月25日から実施する。

附 記

この内規は、平成26年3月19日から実施する。

附 記

1 この内規は、平成28年1月1日から実施する。

2 この内規実施後、最初に選出される室員の任期は、第3条の規定にかかわらず、平成28年3月31日までとする。

附 記

1 この内規は、令和元年11月27日から施行し、令和元年10月1日から適用する。

2 この内規の施行日の前日において改正前の第2条第1項第3号の室員であった者は、この内規により医学部教授会又は薬学部教授会から選出されたものとみなす。ただし、任期については、第3条の規定にかかわらず、令和2年3月31日までとする。

Ⅱ 各分野からの報告

「医療学入門」で学ぶ医療人としての基盤

医学科教務委員長 森永芳智

医学科・看護学科・薬学科・創薬科学科の学生さん合同で行われる「医療学入門」は、入学当初から医療人としての第一歩を踏み出したことを自覚するうえで極めて重要な位置づけとなっているとともに、養成職種を超えたシームレスな連携体制の意義を理解する機会ともなっています。

今年度も新型コロナウイルスの流行の影響を受けて、当初から実施方法に配慮したり予定を再計画するなどの対応が必要でした。しかしながら、廣川副室長を中心に多くの関係者のご協力をいただきながら実務的に調整いただき、「医療学入門」を無事に終えることができました。学生も戸惑いながらではありますが、オンラインと対面とを両立しながら、入学当初の貴重な機会を通して医療の根幹的なものを吸収することができましたし、何よりも非医療人から医療人へと移り変わるこの時期に見聞きすること自体が、極めて客観的な視点で物事をとらえることにもつながりました。また、県外からの入学者にとっても、富山の歴史的背景を通じて本学で医療を学ぶ意義を理解する機会ともなりました。

あいにく、恒例の立山研修やイタイイタイ病資料館の見学は実施することはできませんでしたが、これらの内容が富山大学に入学してきた学生さんへのプロフェッショナルリズムやチーム医療への考え方に与える影響は議論され、そのインパクトの大きさを考えても今後も継続していくこととなりました。このように経験できなかったこともあります。医療を支援いただいている地域社会の方々、患者家族の方々からのお話やご意見は学生の皆さんにも印象に残っているようで、これからの専門教育を真摯に学ぼうという意識付けにもなりました。このように、「富山大学卒業の医療人に共通に流れるマインド」を形成する科目であることは言うまでもありません。

多感な学生さんであるからこそ、医療人としての基盤を形成する本科目の位置づけは極めて重要なものとなっています。今後も、時代で変化していく社会のニーズや、また新しい教育スタイルも取り入れながら、時代に合わせた「医療学入門」であるべきです。教員が考える教育内容だけではなく、学生さんからのアンケートから得られた意見も参考としながら、より良い学修成果につなげられるよう医学科としても協力してまいります。

学生の心に残る「医療学入門」

薬学部教務委員長 友廣岳則

イ病勝訴 50 年という記念すべき年に、個人として初めてイタイタイ病資料館を訪問しました。担当する科目では原子吸光法によるイ病のカドミウム検出を取り上げていますが、貴重な資料を拝見し、改めて萩野医師をはじめとする人々の原因解明への尽力を認識しました。また、当時の人々の暮らしから大規模な土壌改良に至る、富山の風土や人々のたゆまぬ苦勞の歴史を学ぶことができました。それ故、9月に予定されていたイタイタイ病資料館訪問が、爆発的な感染拡大の影響を受けて急遽中止にせざるを得なかったことは大変残念でした。昨年度に引き続き本年度もまた新型コロナウイルス感染が収まらず、様々な行事が中止されて講義主体の授業になりましたが、医療入教育室のスタッフの皆様方の多大なご尽力により「医療学入門」のプログラムが遂行され、薬学部生がよき医療人になるための最初の一步をご指導頂きましたことに感謝致します。

医療を実践する医師、看護師、薬剤師、そしてそれをサポートする創薬研究や関連業務に携わる様々な業種、職種を目指す学生にとって、この学部横断的な「医療学入門」は、互いの垣根を低くし、交流を持つよい機会になっていると思います。さらに、それぞれの基礎学問を含め専門的知識や技能を学ぶことの意義と、多様な視点から医療を考えることの大切さを学ぶ、実践的で貴重な時間となっており、他の科目では得られない教育効果を与えていると実感します。この科目では、医療を受ける側の人も含め、様々な医療関係者からの講義を受けますが、それらの多くは印象に深く残るようです。事実、数年後に研究室に配属されてきた学生もこの科目は鮮明に記憶に残っているといっています。日医工オーディトリウム会場では対面講義を受けられなかったことを残念がる声もありましたが、「このような講義を聴けたことは今後の学業へのモチベーションになる」、「医療人としての意識を向上させることができた」という意見があり、多くの学生が本科目の講義を高く評価しています。学生の感想にもありますように、来年度は施設訪問や合同研修が可能になることを祈るばかりです。

初めて「医療学入門」という1単位科目の、膨大で多様なプログラムを目にしたときの驚きと感銘を未だに覚えています。この充実した医療人初期教育プログラムをこれまで中心となって作り上げてこられた廣川先生が退職されることは、本当に残念なことです。絶えず学生の教育を考えられ、さらによいものにと意欲を傾け尽力されてこられたことに心から敬意を表します。また、医療人教育室の一員として、廣川先生およびスタッフの皆様と共にこの初期教育に関わらせて頂き、なんとか2年間の責務を果たすことができましたことに心より感謝申し上げます。今後も新体制のもとで新たな取り組みがなされながら、充実した教育が推進されるものと期待しております。

看護学教育における医療学入門

医学部看護学科教務委員長 安田智美

医療を取り巻く環境は、少子高齢化の進展、医療技術の進歩、及び医療提供の場の多様化等により大きく変わってきており、国は従来の医療機関に入院して治療を受けるといった病院完結型から、医療・ケアと生活が一体化した地域完結型へと転換するとともに、保健・医療・福祉制度を、従来の疾病や傷害の治癒・回復を目的とする「医療モデル」優先から、生活の質に焦点をあて、疾病や障がいがあっても、地域の住まいで、自立してその人らしく暮らすことを支える「生活モデル」に大きくシフトしてきています。また、患者・家族の医療に対する期待や権利意識、医療安全に関する意識も高まっており、医療提供者に対するニーズも多様化するなど、国民の医療に関する意識も量から質への向上をより一層重視すると方向へ大きく変化してきています。

このような環境や意識の変化のなかで、多職種連携（IPW：interprofessional work）が重要視されるようになってきています。多職種連携（IPW）とは、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに、お互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」を指します。医療の現場では、多職種の間で意見が一致しないこともあります。しかし、対立する意見や判断の基盤になっている価値を理解しようとするすることで、自分とは異なる価値観や様々な考え方を知ることができます。同時に、自身の専門分野での視点で考えや判断について他職種の理解が得られるよう伝えていくことも必要です。多職種連携を進めるには、自身と異なる専門職の専門性を理解し、お互いに尊重し合ってその専門性を発揮できるような多職種連携教育（IPE：interprofessional education）が必要になってきます。将来、チーム医療に貢献する医療従事者の人材育成には多職種協働教育（IPE）は必須です。今後は、「医療」だけでなく、その人らしい生活を包括的に支援する福祉の視点を取り入れ、地域医療に根ざした医療人育成が必要となります。

医療学入門は、多職種協働教育（IPE）の一環として、医学、薬学、看護学を学ぶ学生が合同で医療を学び、考え、意見を述べ合うといった他大学では類のない貴重な科目です。昨年に引き続き、COVID-19の影響で、介護体験実習やイタイイタイ病資料館見学は中止となり、講義の多くがオンライン授業となりましたが、心肺蘇生講習は担当の先生方のご尽力と皆さんの努力の結果、オンラインで行うことができました。また、医療学入門の中で学んだ医療倫理や富山から全国に発信した富山型デイサービス、イタイイタイ病についての講義、NPO「医療と人権」や富山県難病相談支援センター、薬害患者家族などによる多方面からの充実した講義は今後、医師や看護師、薬剤師や研究者などで活躍されるときにきっと有意義なものになると考えます。

Ⅲ 退任に寄せて

富山大学（保健）医療人教育室の15年（since 2006）

富山大学医療人教育室 副室長 廣川慎一郎

2021年度末で医療人教育室を退任するに至り、約15年間かかわってきた（保健）医療人教育室の活動の変遷をお示ししたいと思います。個人的には1982年医学科を卒業後、第2外科小児外科臨床の中にいた私が、2005年医学科教務委員となって、海外医学校の医学教育を視察する機会を得たことがきっかけとなり、医学教育への道を進むことになりました。

富山大学保健医療人教育室2006年度～2012年度の報告書および医療人教育室2013年度～2020年度の報告書を参照し、歴代の室長による巻頭言からキーワードを引用しつつ、医学・薬学・看護学教育を取り巻く時代背景を取り混ぜて本稿を進めたいと思います。（保健）医療人教育室には医学教育に関連する課題は何でも便利屋のように放り込まれて集まることになり、業務がバブル状態となった時期もありましたが、後述するように時々のスタッフの顔ぶれや肩書をご覧いただければ、この時代の医学・薬学・看護学教育の課題と状況が良くわかると思います。

2006年

保健医療人教育室の立ち上げ（鏡森室長）

富山大学統合2005年（平成17年）10月後 2006年（平成18年）8月に「保健医療人教育室」を設置し「よき医療人の育成」に取り組んでいる。

医学部医学科・看護学科・薬学部それぞれの教務委員会における学部教育、保健医療人教育、国際交流連携などの学務業務を全般に補完し、横断的な連携の基に保健医療分野の人材育成を体系的に進めることを目的として、以下の活動を推進。

1. 学生教育支援
2. 地域人材育成支援
3. 医療人教育支援
4. 専門教育支援

スタッフは鏡盛室長・医学部長、畑中薬学部長、立瀬教員（保健医学講座）およびアドバイザーとして神原（保健医療人教育室講師）、Samy Azer（保健医療人教育室客員教授）

開設当初は、学習に困難を有し、長期にわたる登校困難を有している学生の実情を把握、理解からのスタート。

杉谷キャンパスにおける学生教育が抱えている課題と学生への支援（*注）

*医学部、薬学部に毎年大量の留年生が存在していた時期に室が設置されたため

2007年

保健医療人教育という新たな視点（宮脇室長）

医薬看護それぞれの教育室員が各教育分野を超えた有機的な連携の下、学生の学習困難。

課題の対応・地域医療人のキャリアアップ支援・本学教員の教育課題解決支援・保健医療専門人材の育成システムの再構築など、本学内の学生教育、地域や組織内の教育課題に応える体制を整える。

スタッフとして鏡森→宮脇室長・医学部長、畑中薬学部長、保健医療人教育室教員（立瀬助教、廣川附属病院講師、八塚看護学科教授、永山看護学科長）＋アドバイザーSamy Azer（保健医療人教育室客員教授）

医療人教育支援：医療学入門の1ユニット（医学薬学概論）担当、シラバス改正、モデル・コアカリ教育対応支援、PBL教育推進支援、FDワークショップ支援

学習支援：学生支援・面談（トータルコミュニケーション支援室杉谷分室）

地域人材育成支援：NPO 富山地域医療支援センター*

*地域枠・特別枠学生支援

2008年

チーム医療・福祉を担う保健医療人育成の重い役割（宮脇室長）

薬学生の6年教育の流れにも呼応した保健医療専門人材の育成システムの体制

スタッフとして宮脇室長・医学部長、畑中薬学部長、保健医療人教育室教員（井上医学科長、永山看護学科長、山城総合診療部長、八塚看護学科教授、廣川医学教育学准教授、立瀬助教）＋アドバイザーSamy Azer（保健医療人教育室客員教授）

医療学入門、介護体験実習全般、医学概論担当、医学部医学教育学講座設置*、選択制海外臨床実習支援

*廣川 医学教育学講座准教授 専任教員となった

2009年

国際的医療人の育成を目指して（村口室長）

入学時から医学科、看護学科、薬学部学生を横断した特色ある教育プログラムの展開
「東洋の知」を身に付けた誰からも「信頼される」国際的医療人を育成する

スタッフとして宮脇→村口室長・医学部長、畑中→今中薬学部長、保健医療人教育室教員（北島医学科長、竹内看護学科長、山城総合診療部長、八塚看護学科教授、廣川医学教育学准教授、立瀬助教、水野学生支援センターコーディネーター）＋アドバイザーSamy Azer（保健医療人教育室客員教授）

2010年

心豊かな保健医療人の育成（今中室長）

医療を担う学生を育てる大学では「人々の健康を守り、生き甲斐のある社会を実現する」ために「心豊かな医療人の育成」

スタッフとして今中室長・薬学部長、村口医学部長、廣川副室長、保健医療人教育室教員（北島医学科長・医学科教務委員長、竹内看護学科長、酒井薬学部教務委員長、山城総合診療部長、八塚看護学科教授、立瀬助教、水野学生支援センターコーディネーター）

医学教育学講座をコアとして、医学部長、薬学部長、看護学科長、医学部・薬学部・教養教育教務委員長、総合診療部、医学科・看護学科教員学務グループ学生支援チーム、トータルコミュニケーション支援室の構成、体制で支援、よき医療人の育成。

2011年

期待される保健医療人教育室の活動（村口室長）

保健医療人教育室は極めて多岐にわたる活動を担っており、その内容は杉谷医療キャンパスにおける医療人育成の要である

スタッフとして村口室長・医学部長、今中薬学部長、廣川副室長、保健医療人教育室教員（服部医学科長・医学科教務委員長、竹内看護学科長、酒井薬学部教務委員長、長谷川看護学科教務委員長、小野寺教養教育教務委員長、山城総合診療部長、安田看護学科教授、立瀬助教、吉永学生支援センター特任准教授）

1. 医療人教育支援：医療学入門
2. 学生教育支援：なんでも相談、学習スキルコーチング
3. 地域医療人人材育成：医学教育学講座、地域医療支援学講座（寄附講座）*、NPO法人富山地域医療教育センター**、卒後臨床研修センター***、卒前卒後の地域医療教育

地域医療に貢献できる人材育成支援

*、**、***：新臨床研修医制度に対応、卒前卒後のシームレスな教育研修支援体制作り

2012年

学生を育てること、育てることを通して学ぶこと（今中室長）

スタッフとして今中室長・薬学部長、村口医学部長、廣川副室長、保健医療人教育室教員（服部医学科教務委員長、竹内看護学科長、新田薬学部教務委員長、長谷川看護学科教務委員長、名執教養教育教務委員長、山城総合診療部長、安田看護学科教授、立瀬助教、吉永学生支援センター特任准教授）

2013年

保健医療人教育室から医療人教育室へ（廣川室長）

医学部長、薬学部長は室員とは別枠にし、「保健医療人教育室」はより実務的なオフィスとなり、杉谷キャンパス「医療人教育室」として展開することとなった

スタッフとして廣川室長、医療人教育室員（服部医学科教務委員長、酒井薬学部副学部長、新田薬学部教務委員長、長谷川看護学科教務委員長、谷井教養教育教務委員長、山城総合診療部長、安田看護学科教授、石木附属病院臨床研修センター副センター長、医学教育学助教、桶谷学生支援センター特命講師） + オブザーバー 医薬系学務グループ、総務グループ、酒井保健管理センター杉谷支所カウンセラー、高井事務補佐員

医療人教育室が担当する授業である「医療学入門」は「よき医療人」の理念の基に、医学部（医学科／看護学科）・薬学部（薬学科／創薬科学科）1年生全員に対する学部横断型授業及び早期介護体験実習となった。＊詳細は稿の最後に添付、参考資料として参照できます。

医療人教育室は、人の健康や命に係る専門職プロフェッショナルの育成、コミュニティ志向型医療とそれを支える健全な社会を担う人材の養成、さらに国内外の大学や医療施設との交流・連携により、医療分野の学生教育の改善に貢献

2014年

医療人教育室と医療学の導入準備教育（廣川室長）

スタッフとして廣川室長、医療人教育室員（服部医学科教務委員長、酒井薬学部副学部長、松谷薬学部教務委員長、西谷看護学科教務委員長、山崎教養教育教務委員長、山城総合診療部長、安田看護学科教授、石木附属病院臨床研修センター副センター長、医学教育学助教、桶谷学生支援センター特命講師） + オブザーバー 医薬系学務課、医薬系総務課、酒井保健管理センター杉谷支所カウンセラー

以下、報告書より抜粋

この10年で富山大学の医学教育で大きく変わったこと。1. 医学教育モデル・コア・カリキュラムの導入、2. 共用試験 CBT, OSCE の開始、3. 国際標準に沿った医学教育分野の認証評価と臨床実習の充実、の3つ。

1. 医学教育のモデル・コア・カリキュラムは医学教育カリキュラムの統合性と客観性を高めたものになった。

2. 医学部薬学部の共用試験 CBT/OSCE は医学知識のみならず技能や態度を含めた医学教育の客観的な評価の信頼性と妥当性に向上につながった。

3. 国際標準に準じた臨床実習の質と量の充実は、実践的な医学教育のアウトカム（学

修成果と教育成果)を実現しようとするもので、卒業時の具体的な実践能力を医学部が担保することになり、臨床実習重視の医学教育改革が大々的に行われている。

国際的な医学教育に起こったパラダイムシフトの本質は、医学教育の中心(主語)は教える側ではなく学修者である学生であることである。国際的に医学教育の内容の信頼性、妥当性の持続的評価のため、グローバルスタンダード、国際標準に沿った医学(医療)のための医学教育分野での国際認証評価が進められており、日本ではすでに工学部や薬学部ではその専門教育の教育分野別認証評価がなされており、医学部でもようやく日本での認証評価団体が設立され、富山大学医学部では、平成27年度から大々的に国際標準に準じた医学教育新カリキュラムの導入を進め、2015年国際認証評価受審予定となった。

2015年

(北島室長) 医療人教育室設置から10年

室長は大学院医学薬学研究部長が指名、医学部長と薬学部長のうち医学薬学教育部長が兼任。

スタッフとして北島室長・医学部長、廣川副室長、医療人教育室員(一條医学科教務委員長、酒井薬学部副学部長、松谷薬学部教務委員長、西谷看護学科教務委員長、木村教養教育教務委員長、山城総合診療部長、安田看護学科教授、石木医学教育センター准教授、桶谷学生支援センター特命講師) + オブザーバー 医薬系学務課、医薬系総務課

ミッション5本の柱

1. 入学から卒業までの一貫した評価と支援
2. 医学・薬学・看護学共通教育授業
3. 医療人教育・研修会機会の提供
4. 医療・福祉に係わる教育資源開発、維持、充実
5. 国際交流に関連した人材育成

2015年3月 医学教育センター設置、医学教育分野別認証評価を受審し、医学部教育体制、カリキュラムがブラッシュアップ・整理統合され、国際標準の医学教育体制となった。他大学に先駆けて日本での国際認証評価の受審を行い、認証された。医療人教育室が教科担当している医療学入門の授業に関しても、平成27年度以降は前期に集中して行うことになった。

2016年

(細谷室長)

スタッフとして細谷室長・薬学部長、廣川副室長、医療人教育室員(一條医学科教務委員長、酒井薬学部副学部長、櫻井薬学部教務委員長、八塚看護学科教務委員長、宮島教養

教育教務委員長、山城総合診療部長、安田看護学科教授、石木医師キャリアパス創造センター准教授) + オブザーバー 医薬系学務課、医薬系総務課

医学教育センターは医師キャリアパス創造センターへ

2017年

(細谷室長)

スタッフとして細谷室長・薬学部長、廣川副室長、医療人教育室員(一條医学科教務委員長、酒井薬学部副学部長、櫻井薬学部教務委員長、八塚看護学科教務委員長、彦坂教養教育教務委員長、山城総合診療部長、安田看護学科教授、石木医師キャリアパス創造センター准教授) + オブザーバー 医薬系学務課、医薬系総務課

2018年

(北島室長)

1年次生は教養教育一元化で、月曜日から水曜日までは五福キャンパスで一般教養教育、木曜日と金曜日は杉谷キャンパスで専門教育を受ける体制となった。

スタッフとして北島室長・医学部長、廣川副室長、医療人教育室員(一條医学科教務委員長、松谷薬学部副学部長、矢倉薬学部教務委員長、長谷川看護学科教務委員長、安田看護学科教授、石木医師キャリアパス創造センター准教授) + オブザーバー 医薬系学務課、医薬系総務課、高井事務補佐員

地域医療のみならず、時代の流れを先取りした世界の保健・医療に貢献できる人材育成

2019年

(足立室長)

スタッフとして足立室長・医学部長、廣川副室長、医療人教育室員(岸医学科教務委員長、松谷薬学部副学部長、矢倉薬学部教務委員長、長谷川看護学科教務委員長、安田看護学科教授、石木医師キャリアパス創造センター准教授) + オブザーバー 医薬系学務課、医薬系総務課、坂下事務補佐員

2020年

(足立室長) 新型コロナウイルス感染蔓延のためオンライン授業

スタッフとして足立室長・医学部長、廣川副室長、医療人教育室員(岸医学科教務委員長、松谷薬学部副学部長、矢倉薬学部教務委員長、長谷川看護学科教務委員長、安田看護学科教授、石木医師キャリアパス創造センター准教授) + オブザーバー 医薬系学務課、医薬系総務課、事務補佐員

2021年

(酒井室長) 2021 年度報告書へ引継ぎ (廣川副室長退任)

15 年という長期にわたり、医療人教育に係ることができ光栄に存じます。学内外の関係者の皆様からのご支援と多大なご協力を賜り、心から深謝いたしたいと存じます。五福に全面的に移行となる 2022 年度の体制への引継ぎになればと思い、筆を執りました。

*付 医療学入門について

富山医科薬科大学創設期 (昭和 51 年) から医学薬学教育の一環として開講されてきた医薬学概論のなかで、昭和 58 年度から医学科に取り入れられた医学概論実習は、昭和 62 年度から **Early Exposure** としての介護体験実習となった

松原勇, 鏡森定信, 成瀬優知, 山上孝司: 医学部一年次の福祉体験実習の自己評価と指導者の評価, 医学教育 23(6): 363-366, 1992

医薬学概論は平成 5 年度から看護学科が加わり、平成 12 年度からは医・薬・看護の 1 年生を対象とした「医療学入門」へ引き継がれ、さらに平成 20 年度から薬学部学生が初めて介護体験実習に参加した

医療学入門は医学部 (医学科, 看護学科), 薬学部 (薬科学科, 創薬科学科) 1 年生約 300 人を対象に行われている学部横断型授業および医・薬・看護の混成チームでの介護体験実習で構成され、医学部薬学部教務委員長、学科長が担当してきた。

医療学入門授業開始から 10 年を経て、医療過誤や薬害訴訟などをきっかけとした医療不信と医師不足課題 (地域医療崩壊) への対応が必要となり、医療学入門の学習目標に豊かな人間性の涵養やプロフェッショナルリズム教育が加わり、医学教育モデル・コア・カリキュラムの「医師として求められる基本的資質」を基に患者中心の医療教育を目標とするように変遷してきた。

医学部での医学教育モデル・コア・カリキュラムの導入や薬学部の 6 年制教育などの流れに合わせて、2008 年より医学部薬学部を横断して大々的にカリキュラム改定を行った。授業、講義の詳細は医学教育関連の学会などで発表し、富山大学医学会雑誌に掲載したので、以下の資料をご参照ください。

廣川 慎一郎, 石木 学. 富山大学医学部における教育実践に基づく医学教育プログラムの検討(第 1 報)「医療学入門」を事例としたカリキュラム開発・評価. *Toyama Medical Journal* 2016 Mar 26(1): 7-10

廣川 慎一郎, 石木 学. 富山大学医学部における教育実践に基づく医学教育プログラムの検討(第 2 報)「医療学入門」を事例とした教授法と学習法. *Toyama Medical Journal* 2016 Mar 26(1): 11-13

医療学入門一般学習目標

「豊かな人間性を持った『よき医療人』となるために、基本的な医療倫理、プロフェッショナルリズム、医療と地域社会の関わりについて理解し、生涯にわたって自らの行動規範として実践できる姿勢を身につけ、また病む人の心を理解し共感をもって温かく接することのできる医療人としての基本的態度を修得する」

全体のカリキュラムにおける位置づけ

医療人としての基本的な態度やプロフェッショナルリズムとキャリア教育の導入が主たる要素

将来医療人として地域医療、チーム医療を担う使命感の向上のために、1年次から段階的に体験と関連づけて授業を実施することにより効果的に知識技能を学習していく

1年目には早期体験介護実習を行う。

上級学年では各学科参加のチーム医療実習（職種間連携）、地域病院で診療参加型臨床実習を行い、さらに卒後研修まで一貫した各学科における医療学プログラムを想定している。

- 1年次からの医療準備教育
- 富山大学杉谷キャンパス，医療学入門
 - － 医、薬、看護学生を対象とした学部横断型統合授業
 - － グループ学習
 - － 医療倫理
 - － 医療の早期体験（Early exposure）
 - － 混成チームでの早期介護体験実習
 - － 学外コミュニティ基盤型医療
 - － 職種間連携教育
 - － プロフェッショナルリズム
 - － キャリア教育
 - － 新入生研修（立山合宿）、心肺蘇生法講習会
 - － （イタイイタイ病資料館見学）

医療学教育

- 医療学と医療人教育
- チーム医療と職種間連携教育
- コミュニケーション
- 地域社会（コミュニティ）との関わり
- プロフェッショナルリズム
- 生命倫理、医療倫理
- 死生学、尊厳死、終末医療

- キャリア（パス）教育
- 生涯教育

今後

- 新しい時代の医薬看 **Outcome Based Medical Education**、コンピテンシーに合わせた新カリキュラムの作成
- 教科担当と学習評価の主体の確認
 - 医療人教育室、各教務委員会（医学科、看護学科、薬学部）
- 上級学年でのチーム医療、職種間連携教育につながるプログラム、方略の継続性、発展性

IV 2021 年度活動報告

1. 医療人教育

医療人教育室では、医学・薬学・看護学の1年生が合同で学ぶ「医療学入門」授業のカリキュラムプランニングを担当しています。医・薬・看護の各領域の実務家教員による講義とともに、新入生医療学研修や心肺蘇生法講習、保健福祉介護医療施設における介護体験実習など、よき医療人としての基礎となる知識・体験が身につくようなカリキュラムとなるよう配慮しております。

また、学生に対し授業についてのアンケートを実施し、次年度のカリキュラム検討を行っております。

2021 年度 医療学入門授業内容

ユニット	内容	講師
1 医療学概論	医療学概論	医学部長・薬学部長・看護学科長
	あったか地域の大家族	惣万佳代子(NPO法人デイサービスこのゆびとーまれ理事長)
2 新入生医療学研修	新入生医療学研修(立山合宿)	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止となりました
	心肺蘇生法講習	心肺蘇生講習タスクチーム、災害・救命センター、教務委員会
3 コミュニケーションとプロフェッショナリズム	医療倫理とプロフェッショナリズム	宮島光志(応用倫理学教授)
	コーチング法、メタ認知とは	石木学(保健管理センター准教授)、荊澤貴史(保健管理センター)
4 医療と社会	医療と社会(医療人権)	山口育子(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長)
	難病支援と難病患者の思い	浜野保子(富山県難病相談・支援センター相談支援員)、患者様
	患者家族の思い	患者家族様
	薬害再発防止のために	花井十伍(NPO法人ネットワーク医療と人権理事)
	医療と社会	廣川慎一郎(附属病院 南砺・地域医療支援学講座客員教授)
	イタイタイ病について	稲寺秀邦(公衆衛生学教授)
	イタイタイ病資料館見学	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止となりました
5 介護体験 実習	介護体験実習オリエンテーション	新型コロナウイルスの影響により今年度は中止となりました
	介護体験実習	
	介護体験実習報告会	

2. 医療人教育室運営管理

1. 医療人教育室運営会議

約 2 ヶ月に 1 度運営会議を開催し、以下の内容について討議を行いました。

2021 年度 医療人教育室運営会議内容

4月	令和三年度医療人教育室室員について	9月	令和三年度医療学入門成績評価について
	令和三年度医療学入門について		令和四年度医療学入門新入生医療学研修(野外研修)実施の可否について
	令和三年度新入生医療学研修タスクチーム構成員について	11月	令和三年度「医療学入門」アンケート結果について(※令和四年度「医療学入門」打合せ会に含む)
	令和三年度新入生医療学研修スケジュール(案)について		
	令和三年度医療学入門心肺蘇生講習について	1月	令和三年度前期全科共通授業評価アンケート集計結果について
	令和三年度医療人教育室副室長の選任について		新入生医療学研修実施検討タスクチーム構成員について
令和三年度医療人教育室活動計画案について	令和四年度医療学入門講義(案)について		
5月	令和三年度医療人教育室室員について		医療人教育室2021年度報告書(原稿依頼)について
	令和三年度医療学入門外部講師の講義について	3月	医療人教育室2021年度報告書について
	令和三年度医療学入門心肺蘇生オンライン講習について		心肺蘇生法講習タスクチーム構成員について
	令和三年度医療学入門介護体験実習について		令和四年度医療学入門新入生医療学研修(野外研修)実施の可否について
	令和三年度医療学入門イタイタイ病資料館見学について		
7月	令和三年度医療学入門成績評価について		
	令和三年度医療学入門イタイタイ病資料館見学について		
	令和三年度医療学入門介護体験実習オンライン化について		

2. 広報活動

HP による広報活動を行いました。

医療人教育室 2021 年度報告書を作成しました。

V 2022 年度活動計画案

1. 医療人教育

医療学入門の教科担当

- ・カリキュラムプランニング
- ・成績評価
- ・授業アンケート
- ・新入生医療学研修タスク支援
- ・心肺蘇生実習タスク支援
- ・早期介護体験実習タスク支援

2. 医療人教育室運営管理

1) 医療人教育室運営会議開催

2) 広報活動

- ・ホームページによる広報活動
- ・医療人教育室報告書の作成

